

平成 21 年 5 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18520156

研究課題名（和文） 室町期を中心とする天台宗寺院の学芸に関する基盤的研究

研究課題名（英文） A study on the learning at the Tendai-sect temples in the Muromachi period.

研究代表者

齋藤 真麻理(SAITO MAORI)

国文学研究資料館・文学形成研究系・准教授

研究者番号:50280532

研究分野：国文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：①国文学・②宗教学・③日本史

1. 研究計画の概要

近年、中世文学研究においては古今集注など多様な注釈書の重要性が指摘されている。法華経注は多数の説話や和歌を収め、文学のみならず日本文化史を考える上でも貴重であり、中・近世の説話世界の実態を伝える好資料である。

本研究は、田舎天台と称された天台宗談義所の中でも際だって学問的活動が活発であった関東・甲信越地域の主要な天台宗寺院や、天台関連資料が伝来する中・四国地区の寺社を対象として、資料の実態を把握し、その調査研究を通して、天台僧の学問的営為を立体的に捉えようとするものである。法華経注釈書の成立事情、そこに収録される多数の説話や和歌、慣用表現等について、形成と享受の実相を解明する端緒としたい。

2. 研究の進捗状況

本研究は、叡山文庫をはじめとする天台宗ゆかりの寺院・文庫の資料調査を行い、それらのデータを集積・分析することによって、天台僧の学芸の在りようや、歌道との関連等についても研究を進めようとするものである。

具体的には、叡山文庫のほか、萩市立図書館の明倫館旧蔵書、愛媛県の大洲市立図書館に残る国学者矢野玄道の旧蔵書、山口県の忌官神社等に所蔵される資料群など、仏書や天台教学に関する書承・口承資料などを調査した。

天台の經典注釈書の本文には、多くの和歌や道歌が含まれている。そこで、叡山文庫の調査に際してはあえて内典に拘泥せず、

むしろ外典に絞って資料探索を行った。その結果、天台僧の手になる類題集『夫木和歌抄』の写本が発見された。さらに、本書奥書に見える人物は、近世ごく初期の叡山の塔頭の学頭であったこと、稀少な文庫形成にも関わった学僧であったこと等が判明、こうした重要人物の営為になる資料であることから、該当の歌集については小考とともにその全文を学界に公表した。同様に、歌道を中心に天台の学問活動に焦点をあて、特に歌道に関心を寄せた個々の学僧について、その学芸の実態を研究論文として公表した。

また、『説法助言抄』など説法談義に関連深い漢詩文資料を発掘することができたため、今後は和歌資料に限定せず、和漢の韻文についての考究をも進めたいと考えている。

なお、室町物語のいくつかと天台の学芸との関連性についても、考究を進めているところである。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

本研究の基軸である資料調査は順調に進んでおり、新たな資料発掘も行っている。

4. 今後の研究の推進方策

調査を継続しつつ、データの総括に入る。様々な地方誌等も本研究にとっては有益であると思われることから、天台寺院に関わる地誌に掲載される情報の探索範囲を近世まで広げ、学僧の学芸・学問的活動の実態の把握に努める。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者
には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

①齋藤真麻理、字余り詠歌小考、『国文学
研究資料館紀要文学研究篇』35、81-114、
平成 21 (2009)、無

②齋藤真麻理、叡山文庫本『夫木和歌抄』
解題・翻刻、519-572、平成 20 (2008)、
無

③齋藤真麻理、異類の歌合と『夫木和歌抄』、
『夫木和歌抄 編纂と享受』(風間書房)、
217-244、平 20 (2008)、無

④齋藤真麻理、伯耆富士と吉尾翁-『伊豆
国奥野翁物語』を読む-、清文堂出版株式会
社『説話論集』16、265-300、平成 19 (2007)、
有

[図書] (計 1 件)

『夫木和歌抄 編纂と享受』(共著)、1-608、
平成 20 (2008)